

# 免疫力と可視総合光線療法

一般財団法人光線研究所  
研究員 佐藤 仁  
所長 医学博士 黒田 一明

私たちが健康で元気に暮らすためには、病気を未然に防いだり、病気を治す力が必要です。それが、疫（病気）から免れる機能、つまり「免疫力」です。

病気によっては、薬や手術も必要ですが、基本的には自分自身の免疫力を高めないと病気を治したり、進行を抑えることはできません。さらに、これからの医療で大切なことは、日頃から免疫力を高めて、病気にならない体づくりをすることです。免疫力を高めるには、可視総合光線は大変優れた治療方法です。今回は、免疫力と可視総合光線療法の関係について解説します。

## ◆免疫システム

私たちの体に備わっている免疫システムは、大きく分けて2段階あります。

まず、外界からの細菌・ウイルス等の病原菌から体を守る、目・鼻・のど・胃や腸等の外界と接している第一次防衛ラインの「粘膜」です。粘膜から分泌される粘液には病原菌を包み込んで排出したり、殺菌する働きがあります。

粘膜で阻止できず、体内に病原菌が入ってしまった場合は、第二次防衛ラインである「白血球」の免疫細胞が機能します。白血球は、外界からの病原菌だけではなく、体内の不要になった細胞やガン細胞のような異常な細胞を除去する作用もあります。

免疫システムの機能低下の原因は加齢やストレス・不規則な生活・生活環境・食事の乱れ・薬の乱用など色々ありますが、共通することは、いずれも血行が悪くなり、体の冷えや低体温を引き起こすことです。

## ◆免疫力低下と冷え

健康な人の平熱は、36.5～37℃位ですが、36℃以下の低体温の人が増えています。体温が1度下がると、免疫力は30～40%低下すると言われてしています。

その理由はまず、免疫の最前線である鼻・のど・胃・腸などの粘膜の働きが、冷えや低体温によって低下し、細菌やウイルスなどが侵入しやすくなるためです。

また、冷えや低体温で血行が悪くなると、白血球が体の隅々まで十分行き渡らなくなります。毛細血管では、白血球の一部が血管の外に飛び出して、細胞内で病原菌や異物を除去しますが、冷えがあると、毛細血管が収縮し、血管外に飛び出す白血球が少なくなるので、免疫力の低下につながります。加えて、冷えや低体温は、白血球自体の機能も低下させますので、さらに免疫力が低下します。

## ◆免疫力とミトコンドリア

冷えや低体温の改善に、筋力アップが良いと言われますが、筋肉のどの部分で熱は作られるのかと言うと、筋肉の細胞のなかに多く存在するミトコンドリアと呼ばれるところです。

ミトコンドリアとは、私たちの体を構成している約60兆のすべての細胞に存在する小器官です。ミトコンドリアは、食事から摂られた栄養素と肺から取り入れられた酸素を使って、細胞に必要なエネルギーを作り出している「発電所」のような役割をしています。体温を作り出しているだけでなく、免疫細胞ではそのエネルギー源となり免疫機能を高めます。

冷えが強かったり低体温の人は、ミトコンドリアが少なく、またその働きも悪く、免疫力が低いということが言えます。ミトコンドリアを増やし活性化して免疫力を上げるには、適度な運動と良質な栄養、深い呼吸で十分な酸素を取り入れること、それと太陽光線の光と熱のエネルギーが必要不可欠です。

## ◆免疫力とヒートショックプロテイン（HSP）

身体が温められて体温が高くなると、HSP（ヒート・ショック・プロテイン）というタンパク質が体内でたくさん作られることが発見されています。このHSPは、ストレスや病気、外傷などで傷ついた細胞を修復し、傷ついたミトコンドリアも元気にしますのでミトコンドリアの働きも良くなります。さらに免疫細胞を直接活性化する働きもあり、体を温めてHSPを増やすことで、免疫力がアップします。

## ◆免疫力と可視総合光線療法

可視総合光線療法は身体に必要な熱エネルギーを補給し冷えや低体温を改善します。これによりHSPを増加させます。また、体内で発熱し体温を維持にするためには、ミトコンドリアの働きが必要ですが、その活性化には太陽光線が必要です。太陽光線に近い可視総合光線は、ミトコンドリアの活性化にとっても有効です。

光線治療には、他にも、自律神経を調整して白血球の機能を高めたり、ビタミンD産生、メラトニン・セロトニン等のホルモンの産生により免疫力を高める作用もあります。

以上のように、可視総合光線療法の温熱と光の作用は、私たちの免疫力の強化にたいへん有効な治療方法です。

## ◆光線療法

◎元々の病気がある場合は、それに合わせた光線治療を行います。

◎病気ではないが、免疫力が低下している場合は、次の治療から始めます。

治療用カーボン：3000-5000番又は5002-5002番、1000-5000番など。

照射部位：両足裏部⑦、両足首部①、両膝部②を各10分間。

※冷えが強い方、低体温の方、免疫力低下が大きい方は、さらに照射時間や1日の照射回数を、体力の範囲内で増やします。

※胃腸機能が弱い場合は腹部⑤、腰部⑥を、のどや鼻が弱い場合は左右咽喉部④、鼻⑩を適宜追加します。

### 【治療例1】風邪引きやすい

75歳 女性 主婦 146cm 45kg

## ◆症状の経過

60歳で仕事を退職してから、体の冷え・ほてり・寝汗・不眠・動悸・頻尿等の症状に悩まされた。また、一年中とても風邪を引きやすくなり、風邪を引くと長引いた。病院で処方される抗生物質等の風邪薬やインフルエンザの予防接種も効果がなかった。65歳頃、光線治療を行っている姉に勧められ当附属診療所を受診した。

## ◆光線治療

治療用カーボンは3000-5000番使用。

⑦①②各10分間、⑤⑥④各5分間通院治療、4台の治療器で、合計40分間の照射。

## ◆治療の経過

当初、週2回の通院を続けた。冷えが緩和して、1カ月ほどで寝汗が全く出なくなり、よく眠れるようになった。体調が良くなって光線治療の効果を実感し、自宅でも光線治療を始めた。動悸や頻尿もなくなった。1年後ぐらいから風邪を引きにくくなってきた。低体温だったが体温も36℃以上になり、寒がりだったのが暑がりになった。現在、光線治療を始めて8年になるが、たいへん元気で、めったに風邪を引かなくなり、インフルエンザの予防接種も止めてしまった。

## ◆コメント

寝汗や頻尿は、余計な水分を出して、体を温めようとする反応で、体の冷えが改善されてくると治ってきます。風邪の症状軽減の薬はありますが、風邪を治す薬はありません。自己免疫力を高めることが、風邪を引きにくくし、風邪の治りを早くします。そのために、光線治療は、最適な治療方法のひとつです。

**【治療例2】非結核性抗酸菌症（非定型抗酸菌症） 63歳 女性 主婦 163cm 47kg**

**◆症状の経過**

子供の頃から低体温で病気がちだった。50代後半より咳が出やすくなった。咳がひどくなり、血痰も見られたので検査を受けたところ、右肺にカゲがあり、非結核性抗酸菌症の診断を受けた。病院の薬を飲むと、湿疹がでたり便秘がひどくなったので中止した。以前に整体の先生に紹介されて光線治療器は持っていたので、今回この病気に光線治療が役立つのではないかと思い、当附属診療所を受診した。

**◆光線治療**

治療用カーボンは3000-5000番使用。

⑦①②各10分間、⑤⑥各5分間、肩胛骨間部⑫10分間、④5分間。

**◆治療の経過**

1年くらい毎日光線治療を行って、咳や痰が減り、調子が良くなったので、治療を一時止めてしまった。ところが定期検査で、右肺のカゲが広がっていたので、あわてて治療を再開した。できるだけ空気の良いところで過ごしたり、よく日に当たるようにもした。

現在発病して5年、朝、透明な痰が少しですが、あとの症状はない。体温も上昇して、風邪も引かなくなった。肺のカゲは進行していない。

**◆コメント**

この病気の菌は、結核菌の仲間で、土や水などの自然界に生息し、10種類以上見つかっています。ほとんどの人は感染しても発病しませんが、元々肺疾患があったり、加齢や手術などで体力や免疫力が低下してくると発病しやすくなります。人から人への感染はありませんが、薬でも完治しにくい病気なので、免疫力を低下させないようにして、症状を抑え進行させないことが大切です。

**【治療例3】肺ガン（転移） 73歳 男性 自営業 167cm 65kg**

**◆症状の経過**

67歳の時、腎臓ガンの手術を受けた。2年後の定期検査で、原発性の肺ガンが見つかった。まだ症状もなく体調も悪くなかったが、既に頸部や縦隔のリンパ節に転移しており、手術は出来ず、余命半年と言われた。放射線と抗ガン剤治療を行うことになった。光線治療は、数カ月前から友人に勧められ自己流でかけていたが、効果的な治療の指導を受けるため、当診療所を受診した。

**◆光線治療**

治療用カーボンは1000-4008番使用。

⑦10分間、②⑤⑥③各5分間、⑫10~20分間、胸骨部⑩、④各10分間。

**◆治療の経過**

光線治療器2台での治療と、1日数回の治療を勧め、体力の範囲内で実行してもらった。1カ月後に入院、抗ガン剤と放射線治療を行った。入院中も週末は外泊許可をとり自宅で光線治療を行った。1カ月で退院、通院で抗ガン剤治療を計4クール行った。光線治療のお陰で、抗ガン剤の副作用はほとんどなく、体力低下も少なかった。途中十二指腸にも転移が見つかり、背正中部焼の照射を追加した。半年後の検査で、肺ガンと転移部の病巣はすべて消失しており、担当医に大変驚かれた。肺ガン発病後4年経つが、再発はない。

**◆コメント**

ガンの場合は、元々免疫力の低下があると思われますが、さらに、抗ガン剤や放射線が免疫力を低下させます。従って、通常以上に照射時間や照射回数を増やしたり、治療器の台数を増やして治療することが効果的です。